

## 議事 3 今後の予定

---

- 来年度の現地調査
- 地産地消のための手法検討
- 導入可能性量とCO<sub>2</sub>削減効果の算出

# 来年度の現地調査（1/2 風況）

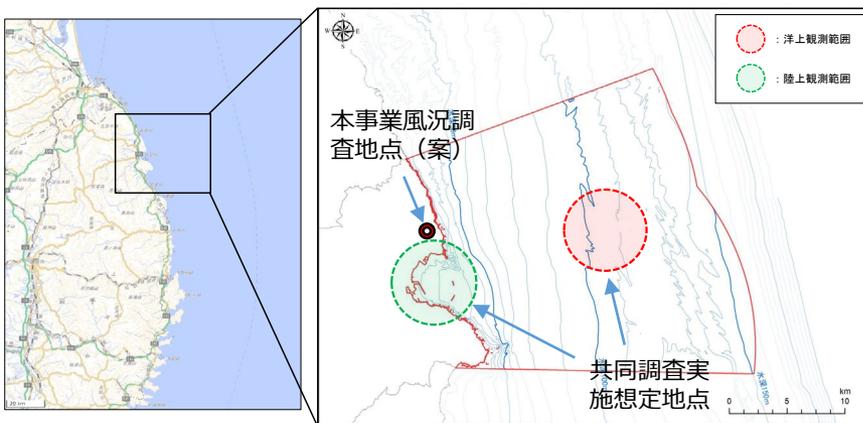
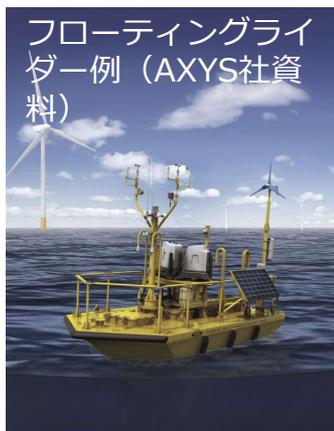
## ■ 目的

- 浮体式洋上風力発電施設による発電出力を想定し、事業計画をより具体的に進めていくために、対象区域の風況について詳細な現地調査を行って、現況について精緻な情報を得る。

## ■ 内容

- 本事業による陸上風況調査：コスト等を考慮し、陸上の風況観測マスト及び鉛直ライダー併用による調査を実施。
- このデータを用いWRFシミュレーションを精緻化することで、自治体主導の事業性検討の業務目的を達成する。

参考：洋上でのハブ高の風況データは事業者のニーズもあり、乱立を回避するため、「事業者による共同調査」による洋上観測を提案。対照地点として陸上マスト・ライダー観測を併設。



# 来年度の現地調査（2/2 漁業協調検討のための調査）

## ■ 目的

- 漁業協調について具体的な検討を進めていくうえで、不足した知見を収集する。魚類への音の影響、当該海域での魚の動向に関与するとみられる水温の鉛直分布についてさらに知見を収集する。

## ■ 内容

### 【音の影響調査】

- 研究機関に依頼し、当該海域で漁獲対象となっている魚種について観察を行う。
- 実験時の状況視察や研究担当者をお招きした講演会の開催等により、漁業者に実感を得ていただく。

### 【当該海域の魚の動向に関与するとみられる水温把握調査】

- 季節毎に、海水温の鉛直分布を観測し、広域の表面海水温観測資料と対比することで海水温鉛直分布の傾向を把握する。
- 上記による海水温鉛直分布の傾向に、漁獲情報を突き合わせることで、水温変化と魚類の動向との関係を把握する。
- 上記、当該海域の魚類の動向についてのデータの裏付けに基づき、当該海域に適した漁業協調策を検討する

# コミュニケーション

## ■目的

- 事業の理解を得て、漁業協調・エネルギーの地産地消を実現するため、さらなるコミュニケーションを図る。

## ■内容

- ポスター展示・アンケート調査
- ワークショップ
- シンポジウム
- 先進地視察 等

# 地産地消のための手法検討(1/2)

## ■ 目的

- 将来当該海域において豊富な再生可能エネルギーが得られることで、地元での活用の可能性が拡大することを念頭に、その手法について、検討する。

## ■ 内容

以下について検討する。

- 事業性のある発電量算定の精緻化
- 最新技術の情報収集及び久慈市への実装検討
- O&M等発電関連産業の新規立地及び電力を活用した新産業の可能性
- 余剰電力の蓄電手法（蓄電池・水素等）と活用手法、インフラ等について国動向把握・事例収集



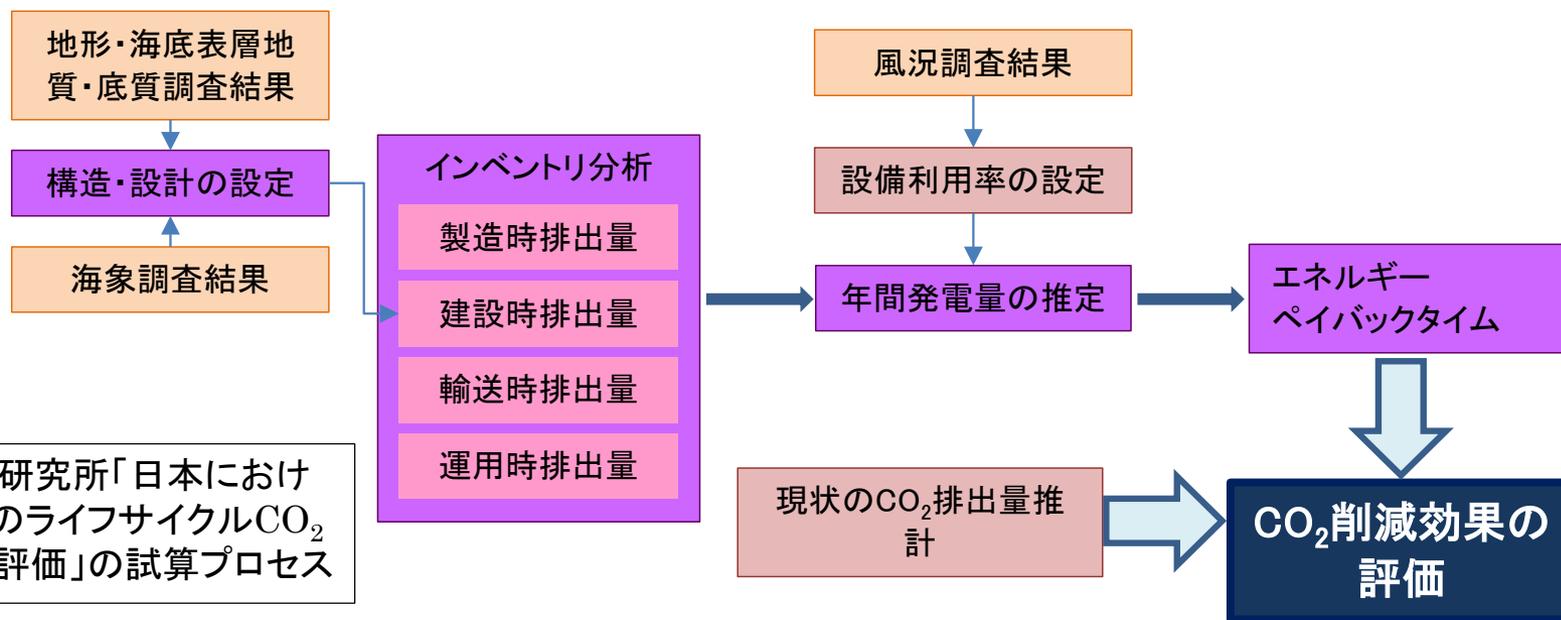
# 導入可能性量とCO<sub>2</sub>削減効果の算出

## ■ 目的

- ・ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の算定に向け知見収集し、CO<sub>2</sub>削減効果の精緻化を図る。

## ■ 内容

- ・ 専門家及び事業者ヒアリング等に基づき、洋上風力発電事業のライフサイクルを把握する。
- ・ 電力中央研究所資料等に基づきライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量を推定する。



参考：電力中央研究所「日本における発電技術のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量総合評価」の試算プロセス